

○議長（中村 敦） 次は、質問順位 3 番、1、サーフシティ構想について、2、秋山翔吾選手の自主トレについて、3、災害協定を含めた防災について、4、ふるさと納税について。

以上 4 件について、2 番 大西將由議員。

○2 番（大西將由） 清新会の大西將由です。通告に従い、一般質問をさせていただきます。

令和 5 年の 4 月の選挙により下田市議会議員となり、約 2 年と 2 か月がたち、任期後半に入りました。人づくりと生きがいづくりを主題に、まちの活性化や将来の住みよいまちの在り方につなげるという意識を持って活動してきました。これからも継続していきます。

それでは、本日は以前一般質問したものの振り返りを含め、今の現状と今後の展望について伺っていききたいと思います。分類としまして、サーフシティ構想について、秋山翔吾選手の自主トレについて、災害協定を含めた防災について、ふるさと納税についての四つの質問となります。

まず初めに、サーフシティ構想についての質問から始めさせていただきます。

令和 5 年 9 月定例会質問時では、サーフトown構想の名称でしたが、本年令和 7 年 3 月にサーフシティ構想が策定され、喜ばしく思うと同時にいよいよだなと感じています。そこで、今後の市の取組について質問させていただきます。

一つ目、サーフィンを活用した関係人口創出について、二つ目、自然災害から市民や訪問者の安全を確保するための防災基盤整備について、三つ目、市民への周知の方法について、四つ目、ハード面の整備の予定について、以上の 4 項目についてお伺いをします。

次に、秋山翔吾選手の自主トレについての質問をさせていただきます。

プロ野球広島東洋カープの秋山翔吾選手については、サーフシティ構想同様に、令和 5 年 9 月定例会において質問させていただきましたが、その年が明けて令和 6 年 1 月に 8 年目、そして本年 1 月に 9 年目と下田で自主トレを行いました。松木市長、山田教育長におかれましては、昨年も本年も歓迎の挨拶に行ってくださいありがとうございました。

地元の横須賀市で盛り上げ大使を務めている秋山選手ですが、当局と秋山選手と日頃から交流のある下田の方の御努力によって、本年 1 月には下田市の応援大使に就任していただきました。今後の下田市と横須賀市との交流にも期待しています。そこで質問させていただきます。

一つ目、来年で自主トレ 10 年目になりますが、イベントなど何か予定していることはあるかについて。二つ目、下田市応援大使になったことで、下田市と横須賀市との開国のまちとしての交流等は考えているかについて。三つ目、引退した場合の秋山選手とのつながりと、

他の選手に下田市で自主トレを続けてもらうための考えはあるかについて。四つ目、スポーツ全般における大会や合宿誘致についてのハード面の整備の計画はあるかについて。以上の4項目についてお伺いをします。

次に、災害協定を含めた防災についての質問をさせていただきます。

昨年12月、災害時の相互応援、宿泊施設の提供に関する協定のほか、ドローン等先端技術に関する事業を展開する企業との協定についての私の質問において、早めの協定締結をお願いしましたところ、本年5月1日にウインディーネットワークと災害支援協定を締結していただきました。災害が発生しないことが何よりですが、いざというときの迅速な被害状況の確認や人命救助のことを考えますと、大変心強く感じています。

そこで質問させていただきます。協定の具体的な内容と今後の計画について。以上の項目についてお伺いします。

次に、ふるさと納税についての質問をさせていただきます。

4月28日の伊豆新聞における2024年度ふるさと納税の成績、速報値ですが、その記事によると、残念ながら件数、寄附総額ともに、前年度実績を下回ったとのこと。原因についても記載されていましたが、新聞等を見ていない市民も多数いると思いますので、最新の情報を説明していただきたいと思います。

人づくりと生きがいくりを主体にまちの活性化や将来の住みよいまちの在り方につなげるという意識を持って活動している私にとっては、非常に重要な課題であると認識しております。そこで質問させていただきます。

一つ目、2024年度のふるさと納税成績について。二つ目、今後に向けての取組と目標金額について。以上2項目についてお伺いをします。

以上をもちまして私の趣旨質問とさせていただきます。

○議長（中村 敦） 当局の答弁を求めます。

市長。

○市長（松木正一郎） 私からは、質問1番、サーフシティ構想について、及び質問の2番、秋山翔吾選手の自主トレについて、この二つにつきまして御答弁申し上げます。

改めて御説明するまでもありませんが、一応関係人口について御説明いたしますと、特定の地域に継続的に多様な形で関わる人のことであり、観光客以上移住者未満というふうに言われております。あらゆる形での関与がございまして、ふるさと納税、兼業副業、イベント活動、地域活動、ワークライフバランス、様々な対応があるものでございます。

こうした人々は、例えばこの下田市に関して申しますと、下田市をいわゆる観光のその先として捉えるだけでなく、第2の故郷、大切な居場所というふうに捉える傾向があります。サーファーの皆さんの多くの人が下田の魅力的なサーフィン環境や、そこでの人間関係などに魅了されて、繰り返し訪れるという方が多く見られます。中には地域の行事や地域活動に、ボランティア活動にも参加する方々、ついには移住定住にもつながった方も近年増加しております。

現在人口減少が進んでいますけれども、こうした地域づくりの担い手となる貴重な人材が増えていくことは非常に重要であるというふうに考えますので、サーフィンを関係人口に結びつけるように、これから努めてまいります。

もう一つ、秋山翔吾選手でございます。

先ほど大西議員が、松木もいろいろなとこに付き合ってくれたというふうにおっしゃっていただきました。いや逆に私は大西議員が毎回毎回お忙しい中いつも御参画いただきまして、お礼を申し上げます。これまで下田市全体、いやもっと言うと伊豆全体ぐらいの感じで、野球少年たち及びそのお父さんお母さんなどが歓迎しているところでございます。

秋山選手御自身も下田市の力になりたいというお気持ちを持ってらっしゃって、わざとSNS上で発信をしていただいたり本当にありがたいと思っております。そうした中、2025年1月13日、5か月ほど前に下田市応援大使に御就任いただきました。市民文化会館の玄関入ったところに、そのときの応援大使就任の写真を大きく掲示しています。ゴールデン・グローブ賞のゴールデングローブとともにでございます。私としても、この秋山選手の存在は大変ありがたく、今後も引き続き様々な形で協力し合っていきたいというふうに考えております。

私からは以上でございます。

○議長（中村 敦） 企画課長。

○企画課長（平井孝一） 私のほうからは、サーフシティ構想のその他3項目と、ふるさと納税についてお答えいたします。

まず、サーフシティ構想の防災基盤の整備についてでございますが、サーフシティ構想においてはサーフィン等による海浜利用者の安全確保について取り組むことを盛り込んでおります。具体的に申し上げますと、サーファーの安全確保のためのレギュレーションやルールの整備、レスキューや津波避難対策の確立等を掲げております。

このうち防災対策としては、現状海水浴場等の対策の中で津波等に対する注意事項の啓発、

避難場所や避難経路の周知などを行っております。今後、年間を通した海浜利用推進していくために、こうした対策の充実、強化が必要と考えております。よって、この構想に基づく利用状況調査や意見交換等を通じて必要な安全対策を整理し、対応を検討していきたいと考えております。

次に、市民への周知方法ですが、サーフシティ構想はサーフィンが持つ力を下田のまちづくりへ積極的に生かそうを基本理念の一つに掲げ、サーフィンは自然・健康・文化・環境・歴史・産業・人材等、まちづくり全体につながる可能性を持っております。

基本方針の一つとして、みんなで関心を寄せ合いオール下田で取り組みますとし、市民、来訪者、事業者、行政が市民としてサーフィンに関わることを期待しているため、広く市民の皆様への広報・周知が必要と考えております。本年度は構想の周知を図るため、広報やホームページへの掲載、サーフィンの可能性を伝えるシンポジウムの開催、サーフィン関係者のプロモーション映像の作成、サーフィンイベントの開催支援、各種大会の誘致などを予定しているところでございます。

次に、サーフシティ構想のハード面の整備についてでございますが、サーフシティ構想の検討作業において、トイレやシャワー等の整備、駐車場の運用方法等に関する意見が多く出されております。本年度、サーフシティ構想の推進に向けて、サーフシティ構想推進委員会を設置し、今後の計画設定や具体的な事業実施に向けて、サーファーの来訪状況や各浜ごとの利用状況等のアンケート調査、関係記者との意見交換等を実施する予定ですので、こうした機会を通じまして、利用者ニーズを把握し対応を検討してまいります。

次に、ふるさと納税でございます。

ふるさと応援寄附金2024年度、令和6年度の実績は9,388件、4億2,459万2,400円で、対前年比で件数で申し上げますと2,860件、23.4%の減、金額で1,585万9,600円、3.6%の減少となっております。この要因としましては、総務省の5割ルールの厳格化、物価高騰による返礼品の割高感が影響したと推測しており、特徴といたしましては、宿泊券と旅行商品が伸びた一方で、海産物が大きく減少している状況でございます。

目標といたしましては、当面の目標として、当初予算4億5,000万円の歳入を見込んでいるところでございますが、それ以上の5億円、それ以上を目指していきたいと思っております。それに向けた取組といたしまして、引き続き返礼品の開発や既存返礼品の魅力向上、商品の魅力を伝える情報発信の強化等に取り組むとともに、現地決済等新しい納税方法の普及促進、サイト事業者との連携強化等を進めてまいります。

私からは以上です。

○議長（中村 敦） 企画課長、2024年度のふるさと応援寄附金の金額をちょっと読み間違えているので訂正してもらっていいですか。

企画課長。

○企画課長（平井孝一） 4億2,459万2,400円が正しい数値でございます。

○議長（中村 敦） ありがとうございます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（増山順一郎） 私からは、秋山翔吾選手の自主トレについて御質問いただいた4点につきまして順次御答弁申し上げます。

まず1点目につきまして、本年度で自主トレ10年目になるが、イベント等、何か予定していることはあるか。こちらにつきましては10年目という節目の年でございますので、今後関係者と協議の上、検討してまいります。

2点目、下田市応援大使になったことで下田市と横須賀市との開国のまちとしての交流等は考えているか。こちらにつきましては、秋山選手の働きかけにより来年1月4日に下田市にて、下田市と横須賀市の少年野球チームの交流試合である第2回秋山翔吾スペシャルマッチ黒船カップが開催される予定となっております。まずはこの事業を通じまして、交流を重ねてまいります。

3点目、引退した場合の秋山選手のつながりと、他の選手に下田市で自主トレを続けてもらうための考えはあるかにつきましては、秋山選手には、少年野球教室等を通じたスポーツ振興だけでなく、下田市の応援大使として、市のPRにも貢献いただいております。他の選手の方々も含めまして、今後も引き続き下田にお越しいただけるよう、関係性の構築に努めてまいりたいと考えております。

4点目、スポーツ全般における大会や合宿誘致についてのハード面の整備の計画はあるかにつきましては、今後、利用者のニーズを大切に受け止めながら、各種補助制度等も積極的に活用し、施設の適切な維持管理、更新に継続的に努めてまいります。

私のほうからは以上となります。

○議長（中村 敦） 防災安全課長。

○防災安全課長（藤井数仁） 私のほうからは、5月1日に株式会社ウインディーネットワークさんと締結しました災害時等の活動に対する支援に関する協定についての内容について申し上げます。

この協定は、市が対応する災害時等の活動に対しまして、株式会社ウインディーネットワークさんが所有するドローン等の先進的な機材の活用により、災害時における情報収集、人命救助に係る捜索、これら活動に付随して要する人員及び資機材の操作、その他市が必要とする活動について無償で支援を受けるというものでございます。

今後でございますが、災害時のみならず、平時の備えの部分も含めまして、相互の連絡体制、資材操作に必要な人材育成、それから研修機会の提供・紹介など、協定締結の効果を最大限発揮できるよう、情報交換を行い、また、ドローンだけではなく災害時に海からの支援要請など様々な支援可能性も探っていきたいと考えております。

なお、下田市消防団におきましても、第2ドローン操作資格の取得を推進しているところでございまして、これらも併せて災害時において迅速かつ的確な情報収集や人命救助活動が行われるよう災害対応力の強化を図ってまいります。

以上でございます。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由議員。

○2番（大西將由） ここからは、一問一答をお願いします。

まず、サーフシティ構想についてなんですが、令和5年9月時点ではサーフィン関係者を中心とした作業部会で、まず構想案を作成するとのことでしたが、その後、委員の皆さんの御努力によって現段階まで来たわけです。本当に感謝しています。

そこで、一つ目の関係人口についてなんですが、答弁にもありましたが非常に期待しております。そこで2023年における日本のサーフィン参加人口ですね。約50万人と言われてますが、下田市について、大体何人ぐらい分かれば教えていただきたいです。お願いします。

○議長（中村 敦） 企画課長。

○企画課長（平井孝一） 関係人口に関わる2023年度下田市の来訪者の数字は把握しているかという御質問ですが、現状で来客者の数字を把握しておりません。ただ、策定の中でも検討の根拠として、サーフィンの実情を把握するべきとの意見がございました。そういったことから本年度現地調査として、サーフィン来訪者を対象とした調査を実施いたしますので、その中で想定、どのぐらい来ているかについても、ちょっと模索していきたいと考えております。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由議員。

○2番（大西將由） 分かりました。これによってある程度経済効果も分かってくると思いますんで、ぜひ調査のほう、アンケートのほうよろしくお願ひしたいと思います。

また、下田中学校サーフィン部の部員数についてですが、全国で2番目に部活としてできた令和4年度が、私、当時20名というふうに一般質問で言ったんですが、正確には16名、すみませんでした、16名。令和5年度が29名に増えました。令和6年度が39名です。本年、令和7年度が44名と着実に増えてます。この要因についてはどう考えるか、お伺いしたいです。

○議長（中村 敦） 企画課長。

○企画課長（平井孝一） 下中のサーフィン部の部員の増加に関して、令和7年度議員のおっしゃるように44名ということ为先日の委員会で私も初めて知って、すごい驚いたところですが、増加している要因といたしましては、オリンピックが正式種目により採用されてサーフィンの認知が大変向上したと。また、サーフィン部におきましてはオリンピックとの交流事業も行われ、初心者でも入りやすいということが考えております。また、野球などの外部のクラブチームに所属している方も入部しているというふうに伺っております。

今年で3回目となる下田チャレンジカップも県内の中高校生に加え、新島、神津島の離島選手を招待し、これによって交流の輪が広がっているということで、そうしたことも要因の一つと考えております。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由議員。

○2番（大西將由） 分かりました。それだけサーフィンが身近なものになっていることが、これで分かります。そして、確実にサーフィン人口及びそれに関係する人口が増えていることが分かる。さらに増えることを期待します。

そこで一つ気がかりなのが、中学校を卒業して高校に進学したときにサーフィン部がないということです。下田高校にサーフィン部をとという要望を多く聞くんですが、生徒数が減少している中で、その中で部活を増やすっていうのはちょっと厳しいかもしれないんですが、こうした声を私、高校のほうに届けていきたいと思っております。そのときに何らかの形で後押しをしていただきたいですが、それについてはいかがでしょうか。

○議長（中村 敦） 企画課長。

○企画課長（平井孝一） 議員のおっしゃる御意見は、さきの委員会の委員の中にも強く求めている方もいらっしゃいます。

そういった中で、1回下田高校のほうにお邪魔したときに、大西議員も認識しておりかなり部活動選択の枠だとかいう中で難しいとは言っておりましたが、今後についてはその方針等について、また再度、県の教育委員会や下田高校と情報交換、意見交換等を行って、今後についてどのようにしていくかについてちょっと市も一緒に考えていきたいと思います。

以上です。

○議長（中村 敦） 2 番 大西將由議員。

○2 番（大西將由） それについてはぜひお願いします。

二つ目の防災の基盤整備については分かりました。やはり海辺の災害で一番怖いのは地震による津波です。いざという時のためには早めにルールをはじめ、安全対策をしっかりと行っていたきたいと思います。これは要望で終わります。

三つ目の市民への周知についてですが、オリンピックの種目にもなりスポーツとしての地位が高まったと思いますが、まだまだだと思えます。何をしようとしているのか分からないという市民が多いのは事実です。さらに、私たちの親世代ですね。昔のイメージでサーファーは茶髪とかピアスとかして、ちょっとチャラチャラしたイメージで良くないイメージを持っている方がある程度います。そういう方は放っというのではなくて、そういう方のイメージも変えて、応援してもらえようになってもらいたいです。それについてどのようにお考えになってますか。

○議長（中村 敦） 企画課長。

○企画課長（平井孝一） こちらについても、この前の委員会の中で本当にその委員の方々はいろんな面からサーフィンに携わっている方なんで、このサーフシティ構想についてはすごい御理解を示されて、本当前向きな答えとか考えを持っているんですが、その一方で、本当大西議員が言ったとおり、市民への周知をしてもらいたいという声がございました。私もその場の席にいて、広報担当の課長でもありますので、皆さんにサーフィンについて、よりよく理解していただきますよう、広報をはじめ多様な媒体等を活用して、皆さんに周知していきたいと考えております。

○議長（中村 敦） 2 番 大西將由議員。

○2 番（大西將由） それについては、ぜひお願いします。

四つ目のハード面の整備についてですが、先ほど答弁にもあり、サーフシティ構想の快適なビーチ周辺の整備ということで四つありますが、一つ目の駐車場の整備システムの改善と再整備、トイレ清掃の徹底と再整備、シャワー施設の適正管理と未整備エリアへのシャワー施設整備、スケートボードパークなど附帯施設の整備検討とありますが、一度に全ては厳しいと思いますが、強いて言えば優先順位をつけて行くとすれば、何から行うのかお伺いします。

○議長（中村 敦） 企画課長。

○企画課長（平井孝一） 優先順位につきましては、委員会の検討や今後行うアンケート、意見交換等を通じて条項を行った上で、今後の対応について検討していきたいと思っておりますが、それと先ほどの観光交流課長が、そのサーフシティ構想に併せて観光推進計画だとか、その他関連計画と併せていろいろ検討していきたいという話もありましたので、他の関係計画との整合性も持ちながら、そういったことをどのようにしていくか、今後検討していきたいと考えております。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由議員。

○2番（大西將由） 分かりました。来訪者を増やしていくためには、施設を含む環境整備が重要ですので、課題はあると思いますが、今回こうして計画をまとめたことを踏まえて、できることから目に見える形でどんどん進めていただきたいと思います。これは以上になります。

続けて、秋山選手の自主トレについてなんですが、一つ目の自主トレについては予定では来年1月4日から下田に来られます。そうすると自主トレ10年目になるわけですが、それだけ下田を気に入ってもらっているということになります。ですので、練習日程の調整もあると思うんですが、できれば調整がつけば帯同している一緒に来ている選手も含めて、何か交流会的なものをやっていただけたらと思うんですが、それについてはいかがですか。

○議長（中村 敦） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（増山順一郎） 秋山選手におかれましては、10年間長い間市のスポーツ振興に御尽力いただき、また、応援大使としてPR活動をいただいたことに対しまして、帯同されている選手の皆様も含めて、市民から感謝を伝える機会を設けられるよう内容を検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由議員。

○2番（大西將由） ぜひ前向きに検討をお願いしたいと思います。

二つ目の横須賀市との交流については、昨年12月に下田市の少年野球の子どもたちが横須賀市へ行って、向こうの子どもたちと交流試合をやってきて、すごく設備がいい球場ですごく良かったという感想を聞いております。今回、来年1月4日に下田市で開催予定とのことですが、秋山選手は非常に良い交流の流れというか、きっかけをつくってくれたと思ってます。これは今後も継続していただきたいです。

また、今回野球の交流なんですが、今後、野球以外のスポーツ、またはスポーツ以外の交

流という考えもあるかについてお伺いしたいんですがいかがですか。

○議長（中村 敦） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（増山順一郎） 横須賀市との交流で、今後野球以外のスポーツ、スポーツ以外の交流も考えているか、これにつきまして、横須賀市の方と情報共有をしながら可能性がありましたら、マリンスポーツ、また文化事業など他の分野の交流にもつなげていければというふうに考えております。

以上です。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由議員。

○2番（大西將由） いろいろな分野で交流できることはお互いに良いことだと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

続けて、三つ目の秋山選手とのつながりについては、秋山選手はまだ現役で頑張っているだけだと私は思っています。ただ、一部の競技を除いてはスポーツ選手の平均引退年齢は比較的早いですね。ちょっと調べたんですけど、サッカーが26歳、野球27歳、バスケットボール34歳、バレーボール31歳など、かなり引退年齢が早いです。これはあくまでも平均なんですけど、秋山選手においても遅かれ早かれその時期は来ると思います。そうなったときに秋山選手との関係とか、プロ野球選手との自主トレが終わってしまうのではなく、継続して下田市に来てもらうための準備も必要と考えますが、それに対してはいかがですか。

○議長（中村 敦） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（増山順一郎） 秋山選手の引退後のプロ野球選手の自主トレ、こちらにつきましては、引退後の方向性、秋山選手の方向性にもよるかと思いますが、引き続き関係者の皆様に下田市を自主トレの場として選んでいただけるよう、秋山選手とのつながりを大切にしながら、プロアマ問わず、様々な方々が合宿にお越しいただけますよう情報発信、支援、補助に係る施策の充実に努めてまいります。

以上です。

○議長（中村 敦） 教育長。

○教育長（山田貞己） 子どもたちは、大西議員おっしゃるように、野球に限らずプロスポーツ選手に限らず、憧れている人に会えるというのは非常に人生にとって大きなことなんですね。秋山選手のお人柄というのも、私とてもすばらしい方だというふうに思っていて、そういった方ですので、下田市のことをとても大切にしてくださってる。今後もそういう姿勢は間違いなくあると思うんです。

秋山選手がこちらに訪れるときに、数名ほかの選手も若手を連れてきてくださってます。ですので少なくともそういった方々とのつながりも今後期待できますし、今度秋山選手が来たときに私聞いてみようかなと思います。今後どうされますかということで、具体的にですね。そういった会話のできる方ですので、そういったアプローチもいいかなというふうに思います。ぜひ、私個人的にもああいうお人柄の選手には今後長くお付き合いしていただきたいと思っていますので、子どもたちのつながりも重ねて期待したいというふうに思っています。

以上です。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由議員。

○2番（大西將由） 分かりました。秋山選手も下田をPRするためにも頑張るよと言って来てますんで、ぜひお願いします。

続けて、四つ目のスポーツ全般におけるハード面の整備については現時点では具体的な計画はないということのようですが、サッカーとか陸上、卓球、バスケットボール、水泳等とやはり人を呼ぶためには、受け入れるための施設整備が必要ですので、それをぜひ進めていただきたいと思います。

特に宿泊施設なんですけど、ある程度の例えば30人とか40人とかある程度人数を受け入れられて、1人当たりの料金もすごく高過ぎない、平均的ということで施設があまり下田にはないという話で、せっかく合宿などで来ても、泊まって宿泊で落とすのが南伊豆町であったり、河津町であったりとか、そういう話も聞いています。それはちょっと良くないなと思いますんで、そこで質問させていただきますが、合宿誘致につながるハード面の整備として、下田市の市直営の合宿所の検討というのをやる考えはあるかどうかについてお伺いしたいです。お願いします。

○議長（中村 敦） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（増山順一郎） 合宿利用者の増加に向けましては、議員の御指摘のとおり、やはり受入れ体制の充実が大きな課題と考えております。実際、やはり環境としては、なかなか受け入れていただけないというか、受入れ環境の部分で若干弱い部分があると。今後、やっぱり利用者の要望ですとか、環境面、問合せの内容等も精査しまして、下田市を合宿に来ていただいた方が活動全般の拠点としていただけるよう、必要な整備に向けて検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（中村 敦） 2 番 大西將由議員。

○2 番（大西將由） その辺り、しっかり検討してください。お願いします。

次に、災害協定についてですが、この協定の内容と今後については分かりました。先ほど海からの支援という話もあったんですが、ウインディーネットワークさんには空のドローンだけではなく水中ドローンもあって、水中においての捜索だけではなくて、地震などによって変化した海底の地形ですね、それも測量技術を使って調査できると。水陸両方の災害支援をしていただけることはありがたいです。協定を締結していただいてありがとうございます。

また、市の職員だけでなく消防団の団員にもドローン操作資格の取得を推進しているとのことですが、一つだけ気になることは、取得後についてですね。ちょっと例え話になりますけど、自動車の免許で言うと、免許を取って、取得してすぐに運転すればもう慣れてくるんですが、もう何年も運転してないと、もう初めの段階まで戻るといえるか忘れちゃいます。その場合に、どうしても運転が必要になったら、そこで練習をして運転すればいい話なんですが、ドローンについてはそうはいかないですね。災害が起きたときにそこからまた思い出すために練習やってなんていうと遅いんで。

そこでもう一度質問させていただくんですが、ドローン免許取得後の教養などの計画について教えていただきたいと思います。お願いします。

○議長（中村 敦） 防災安全課長。

○防災安全課長（藤井数仁） ドローンの運用に関しましては、確かに訓練しないと即座になかなか現場で運用ができないのかなということで、免許取得後も継続的にスキルを高められるように、操作訓練ですとか模擬飛行の機会はまだ設けているということで、こうした取組を継続して、実践の場でスキルを発揮できるような体制づくりを進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（中村 敦） 2 番 大西將由議員。

○2 番（大西將由） 分かりました。いざというときにしっかりと操作できるようにふだんから訓練というか、練習のほうをお願いしたいと思います。

続けてなんですが、次に前回の一般質問後、かなり反響が、防災についての反響があったのが、津波避難タワーとペットの同行避難についての二つです。

津波避難タワーについては、ぜひ武ガ浜地区にお願いしたわけですが、これは継続して要

望します。

そして、まちなかに目を向けると、避難ビル、避難タワーともにゼロである現状から、下田保育所ですね。統合された場合の跡地利用について市で、例えば市で活用する、または売却する、賃貸するって、いろんな検討があると思うんですが、その一つに津波避難タワーも入れていただくことは可能かどうか伺います。

○議長（中村 敦） 防災安全課長。

○防災安全課長（藤井数仁） 今後統合が進んで、仮に下田保育所が跡地になったときには、庁内に有効活用の検討委員会というのがございますので、その中で様々検討が加えられることになるのかなと思います。今、断定的にその津波避難タワーを整備するってことは申し上げられないんですけれども、一つの活用案として上ってくるということはあり得るのかなと思います。

また今後、この間、国の被害想定出たんですけれども、県のほうの第5次被害想定がそれを受けて進んでくると思いますので、市としてもこれから様々な、これまで取り組んできたことの総チェックっていうのはしていけないといけないのかなというふうに考えておりますので、その中の全体的な見直しといいますか、また必要なかなと思っております。

以上でございます。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由議員。

○2番（大西將由） 分かりました。ぜひともよろしくお願いしたいと思います。

次に、ペット同行避難については、動物アレルギーの方もいるので、同じ避難所においても、場所を分けて避難できるように計画のアドバイスを前回お願いしたところであります。ただし、ペットの管理ルールが九つあって、最終的には飼い主とペットは別々という答弁いただいたんですが、その後それに対して、やっぱりペットと一緒にじゃなきゃ意味がないよという意見をかなり聞きまして、非常に難しいことだと思いますけれども、ほかの地域の事例とか、こういった方法もあるよというのがありましたら、教えていただきたいなと思います。お願いします。

○議長（中村 敦） 防災安全課長。

○防災安全課長（藤井数仁） ペットのその避難につきましては、今議員がおっしゃられた同行避難というものがございます。似たものに同伴避難というものがございまして、同行避難は、災害発生時に飼い主がペットと一緒に安全な場所まで避難する行動のことを言うんですけれども、これは人とペットが同じ空間で居住できることはないものです。同伴避難も同じ

で、ただ避難所で避難生活を送るっていうことを指すと。実はもう一つ、同室避難というものがございます。同室避難というのは、避難所の施設の中で、同じ居住スペースの中で避難生活をするというものでございまして、ただ、本市はそういう考え方を取っていないので、今後また各自主防等でちょっと話合いで決めていただくことになるのかなと思います。

以上でございます。

○議長（中村 敦） 2 番 大西將由議員。

○2 番（大西將由） いろいろ同行・同伴・同室ってちょっと難しいんですが、今後の参考にさせていただきます。

次に、最近インスタグラムを見てますと、地元の民間の方が積極的に防災について活動しているというのを目にします。その活動については、伊豆新聞にも取り上げられていました。この活動をしている方は下田防災クラブ I M A G I N E を立ち上げた渡辺 恵さんという方です。私、直接お会いしたことはないんですが、活動内容を拝見すると、もう本当に関心、勉強になります。この方は静岡県ふじのくに防災士で、同時にふじのくに災害ボランティアコーディネーターでもあるそうです。この方の活動を御存じか伺います。

○議長（中村 敦） 防災安全課長。

○防災安全課長（藤井数仁） ちょっとほかの課長分かりませんが、自分はちょっと新聞記事等で拝見させていただいたぐらいで、ちょっと面識はございません。

○議長（中村 敦） 2 番 大西將由議員。

○2 番（大西將由） 分かりました。ほかにも防災について活動している団体というのはあると思いますので、特にここの防災クラブだけに何かしてほしいというわけではなくて、例えば自主防災会などとの良い意味でのつながりができればすごく心強いと思うんですが、そのつなぎ役となっていきたいんですが、それについてはいかがでしょうか。

○議長（中村 敦） 防災安全課長。

○防災安全課長（藤井数仁） 民間の方が、知識ですとか経験を生かして情熱を傾けて、使命感を持って様々な活動を積極的に行っていただくってことは大変望ましいことだなと思いますので、行政としても、自主防等々とのつながりができるように応援していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（中村 敦） 2 番 大西將由議員。

○2 番（大西將由） 私もそのように思いますので、ぜひお願いしたいと思います。よろしく

お願いします。

最後、ふるさと納税についてなんですが、実績については1,600万円近くの減少ということですが、ルールの厳格化や物価高騰などの影響の要因からすると、その額で済んでよかったという感想です、実際。ただ、そのような中でも実績を伸ばしている自治体もありますんで、もう一度やり方を見直すが必要になると思っています。

昨年12月の一般質問において、中間事業者の選定について述べましたが、述べた時期が少し遅くて、公募をする段階までいかず、そのまま同じ事業者さんと契約年度更新となったわけですが、ただ、そういう動きですね。下田市が事業者選定を考えているという動きを、今の事業者さんが聞いて、ちょっと危機感を持って、先ほど答弁にあったように、新規返礼品の開発や情報発信の強化に力を入れて、それによって寄附金額があまり伸びていけば、いけば問題はないんですが、あまり変わらないようであれば、また考え直していただきたいと思います。

現に、5月21日の伊豆新聞には三島市が、ふるさと納税の赤字改善に向けて実績のある中間事業者に変先を変更したとの記事がありました。このように下田市も実施体制の抜本的な見直しが必要かと思いますが、それについてはどのような考えであるかお伺いをします。お願いします。

○議長（中村 敦） 企画課長。

○企画課長（平井孝一） 中間事業者に関してなんですが、現在、下田市においては12サイト掲載するサイトがありまして、その内7サイトを管理する中間業者があるんですが、その業者においては今回の寄附額の減少を受けまして危機感を感じているというところで、その会社は今年度担当者としてアナリストを増員して強化に取り組んでいるところでございます。

そうした中ではございますが、今後の状況を注視しまして、来年度へのさらなる強化を目指すため、中間業者の契約に当たりましてはプロポーザル方式等による事業選定も検討していきたいと考えております。

○議長（中村 敦） 2番 大西將由議員。

○2番（大西將由） 分かりました。ぜひともお願いしたいのと、寄附金額がすぐには言わないですけども、二、三年で現在の4億円台から、倍の8億円台ぐらいになるように一緒に取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

最後に、これちょっと話がずれますけれども、ここにいらっしゃいます皆様とあと市民の

皆様にお願ひがあるんですが、自分の、自分自身の体調は自分が一番よく分かつてると思います。決して無理をし過ぎないようにということで、そして健康を維持して長生きできるように、下田市の人口減もありますけれども、みんなが笑顔で健康でいられるように、ふだんから体調管理に気をつけていただきたいというお願いをしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 敦） これをもって、2番 大西將由議員の一般質問を終わります。